

## 「やればできる」の自信をもち主体的に学ぶ生徒の育成

### ～積極的な生徒指導をとおしての「学力向上」への取組～



- 学校名 久喜市立鷺宮中学校
- 所在地 久喜市鷺宮782
- TEL 0480-58-1004
- E-mail washinomiya-j@kuki-city.ed.jp
- ホームページ <http://www.kuki-city.ed.jp/washinomiya-j/>

## 1 研究主題

### (1) 研究主題

「やればできる」の自信をもち主体的に学ぶ生徒の育成  
～積極的な生徒指導をとおしての「学力向上」への取組～

### (2) 研究主題設定の理由

本校は、平成23、24年度「望ましい小中連携のあり方に関する研究」を、砂原小学校と協同して研究・実践してきた。いわゆる「中1ギャップ」を解消するために、児童生徒の交流、教職員の交流、カリキュラムの共有などを柱として取り組んできた。そして、一定の成果を上げることができた。平成25、26年度は「9年間を見通した、確かな学力の育成」を推進してきた。しかし、全国学力・学習状況調査や本校独自の学力に関する調査結果から、本校生徒は、二極化、低位層の割合、知識・技能の活用などに依然として課題が見られている。また、学習に対する意欲、将来に対する期待感、自己存在感、生活リズム、家庭学習の習慣などの回答結果にも課題が見られた。

以上のことから、本校の学校教育目標に掲げられている「やればできる」とは、自信や自己効力感と捉え、積極的な生徒指導の3留意点を授業・学級経営に意図的に組み込み、豊かな体験を通して、「確かな学力」を育成することを目指して、本研究主題を設定した。

### (3) 研究の仮説

仮説1 生徒指導の3つの機能に留意し、アクティブ・ラーニング等の手法を取り入れた「生徒が主役」となる授業を展開することで、生徒の学習意欲が向上し、主体的な学びが促進されるであろう。

〈授業が変わる〉〈教師が変わる〉

仮説2 成功体験を積むことで、基礎学力の向上及び「やればできる」の気迫と自己効力感が養われ、主体的な学びが促進されるであろう。

〈生徒が変わる〉

## 2 研究の実践

### (1) 「生徒が主役」となる授業を展開する。

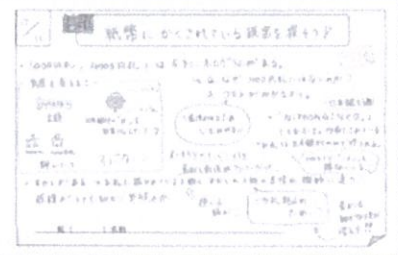
ア 授業に「生徒指導の3つの機能」を取り入れる。

イ 授業にアクティブ・ラーニング等の手法を取り入れる。

#### 具体策

- ① 指導案の改善 ② 「思考ツール」の導入

- ③ 「自己評価シート（授業）」の改善
- ④ 「新しい形の宿題」の導入  
(授業と一体化した、予習的、発展的課題)
- ⑤ 学習規律の徹底
- ⑥ すべての授業における研究授業の実施



(2) 個々の生徒の「自己効力感」を育成する。

- ア 「やればできる（成功）」体験を積み重ねさせる。
- イ 家庭学習の習慣を定着させる。

具体策

- ① 「やればできるテスト」の年間を通じての実施  
(国語・数学・英語の小テストを全校で年間を通じて行う。)
- ② 「自己評価シート（行事）(学期末)」の改善
- ③ 家庭学習ノートの活用  
(全校が共通のルールの下での実施 優秀なノートの掲示)

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ア 「全教科」で研究に取り組んだことで、「教科の壁」ができることなく、全職員が一丸となり研究を推進でき、授業の内容や進め方について改善された。(図1)
- イ 埼玉県学力・学習状況調査結果からは生徒に学力の伸びが見られた。(図2)

(2) 課題

- ア 学習過程においてどの場面でのようなアクティブ・ラーニングの手法が、効果的であるかを考慮しながら検証、実践を積み重ねていく必要がある。
- イ 全国学力・学習状況調査結果からは数学においてA問題での正答率に伸びが見られなかった。「やればできるテスト」などを通じて基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図っていく必要がある。

図1 授業の内容についてのアンケート結果  
(平成27年度と平成28年度との比較)

- 質問16 授業では進度に合わせた「めあて」や「目標」は示されている。
- 質問17 先生の指示や説明が分かりやすい。
- 質問18 自分の考えを深めたり、自分の考えを表現（発表・記入）する場面がある。
- 質問19 仲間と協力して学習したり考えを伝え合う活動をする場面がある。
- 質問20 学習や活動をこまめに振り返ったり、確認する機会（小テスト・自己評価等）がある。

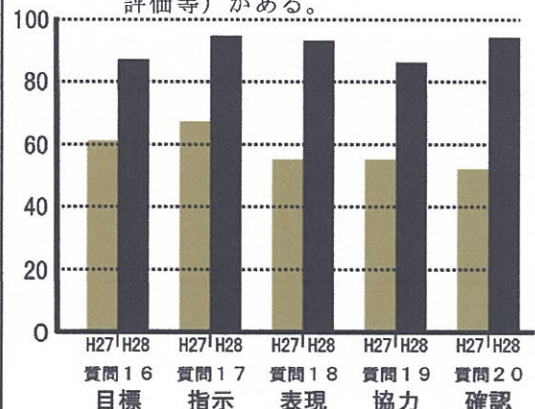


図2 埼玉県学力・学習状況調査の結果の伸び  
(平成27年度と平成28年度との比較)

